ＪＡ自己改革推進レポートについて

令和５年７月２５日
ＪＡ鳥取県中央会

１．ＪＡ自己改革実践状況

（１）ＪＡ鳥取西部の取り組み

①米フェスタ２０２３　美味しい米づくりに挑戦

ＪＡ鳥取西部などで構成される米フェスタ実行委員会は５月２８日、「米フェスタ２０２３　美味しい米づくりにトライ！」を開き、約１００人の親子連れや関係者が田植えを行った。米フェスタは今年で３６回目。コロナ禍の影響により、親子の参加を募るのは４年ぶり。参加者らは、裸足で田んぼに入り、丸山集落営農組合員の指導の下、約２０㌃の「ふれあい交流田」にコシヒカリの苗を手で植え付けた。田植えの後は、魚のつかみ取り、米俵のふた「さんだわら」を投げるゲームを楽しんだ。今回植えた米は９月下旬に収穫する予定。

②ファンデリーとコラボ　「大山ブロッコリー」使用うどんパスタ新発売

ＪＡ鳥取西部と冷凍食品メーカーのファンデリー（東京都北区赤羽）は６月８日、事業連携で大山ブロッコリーを使用したコラボ商品の販売を開始した。ファンデリーは、食事宅配サービス「旬をすぐに」などの事業を展開。おいしさと安全性を重視して、生産者のこだわりが詰まった新鮮で高品質な食材を使用し、国産食材１００％の冷凍食品を製造販売している。コラボ商品名は「草木も眠る丑三つ時に収穫大山ブロッコリーの饂飩（うどん）パスタ」（５９８円・税込）。ファンデリーの公式サイト「旬をすぐに」で購入できる。

③小学生が地元特産白ネギ学ぶ。選果場を見学

米子市立福米東小学校の児童が６月１２日、社会科見学でＪＡ白ねぎ共同選果場を訪れ、地元特産白ネギについて学んだ。ＪＡ鳥取西部の担当者が白ネギ栽培や選果場の役割などを説明し、県が育成した白ネギ「伯州美人」を紹介した。児童らは、作業員の選果・調製、箱詰め作業などを熱心に見学し、特産白ネギへの関心と理解を深めた。

以上